

看護学概論 看護の基礎と看護の変遷

講師名 田辺 敦

目 標

1. 看護の概念・社会の変遷と看護の発展を学び、看護の本質・機能を理解する
2. 看護の対象である人間を統合的に理解する
3. 健康の概念、健康の要因、国民の健康状態を理解し看護職の役割を理解する
4. 現代の看護を理解し、専門職業人としての活動と保健医療福祉システムの中で看護の果たすべき役割や看護活動を理解する
5. 自己の看護観を確立していくための基礎知識・姿勢について理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護学の成り立ちと定義 1) 看護とは何か (1)看護の原点 (2)ナイチンゲールの残したもの (3)看護の定義の変遷 (4)ヘンダーソンの考え方 2) 看護学とは何か (1)看護学とは実践の科学である (2)看護学を構成する主要概念 (3)看護を理解するために用いられる諸理論 2.看護の変遷 1) 宗教と看護 2) 戦争と看護 3) 宗教改革と産業革命 4) ナイチンゲールの功績と近代看護 5) アメリカにおける看護の発展 6) わが国における看護のあゆみ 7) 社会の変化と看護教育の発展 3.代表的な看護理論 1) 看護理論とは 2) 主な理論家の看護概念 4.看護の対象としての人間 1) 人間とは何か (1)人間と動物の違い (2)生きるということ (3)人間の成長発達	30	講 義 GW	筆記試験 レポート

内 容	時間数	授業形態	評 価
2) 健康の捉え方と国民の健康 (1)健康・障害とは (2)国民の健康状態 3) 看護の対象としての家族 4) 看護の対象としての社会 5.総合保健医療の中での看護の役割 1) 日本の医療システム 2) 看護の役割と責任 6.看護の専門性 1) 専門職とは 2) 職能団体の果たすべき役割 7.看護職の養成			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論 看護覚書 看護の基本となるもの 看護者の基本的責務	茂野 香おる 他 ナイチンゲール V・ヘンダーソン 日本看護協会監修	医学書院 現代社 日本看護協会出版会 日本看護協会出版会

備考

試験は筆記試験とレポートによる ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師として看護の概念、看護師の役割について教授する)

看護倫理 看護職としての倫理

講師名 木村 文枝

目 標

1. 生命の尊厳を基盤に看護倫理、職業倫理を学び、看護者として求められる倫理的責任と倫理的行動について理解する
2. 倫理原則や倫理規定をもとに、法的な看護師の位置づけと法的責任を理解する
3. 看護場面で遭遇する倫理的問題について、解決方法を考える力を養う

1 単位 (15 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.看護職の法的責任と倫理 1) 看護の基本法 2) 倫理原則 3) ケアの倫理 4) 看護者の倫理綱領 5) 臨床倫理 6) 研究倫理 2.倫理的問題への取り組み方 1) 倫理的態度とは 2) 患者に寄り添う看護 3) 倫理的事例を通して考える	15	講 義 GW	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論	茂野 香おる 他	医学書院
系統看護学講座 別巻 看護倫理	宮坂 道夫 他	医学書院
看護者の基本的責務	日本看護協会監修	日本看護協会出版会

備考

試験は筆記試験による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師として、看護者として求められる倫理について教授する)

基礎看護学方法論Ⅶ 看護過程

講師名 木村 文枝

目 的

個別的な看護を実践するための科学的思考プロセスを理解する。

目 標

1. 看護過程の構成要素がわかる
2. アセスメントの方法・過程がわかる
3. 看護問題を確定する過程がわかる
4. 看護計画の立案の方法がわかる

2 単位 (45 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素 1) アセスメント (1) 情報の収集 (2) 情報の整理 (3) 情報の解釈・分析 2) 看護問題の明確化 (1) 統合 (2) 看護問題の明確化 (3) 優先順位の決定 3) 計画 (1) 看護目標 (2) 短期目標 (3) 具体策 4) 実施 5) 評価 3. 看護過程の展開の実際	45	講 義 GW	看護過程を 展 開 し た 提出物 学習態度 (提出物の 期限、グルー プワーク時 の積極性な ど)

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術 I 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開	茂野 香おる 他 医療情報科学研究所	医学書院 メディックメディア

備考

試験は筆記試験とレポートによる ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師として、看護を実践するための科学的思考プロセスについて教授する)

母性看護学方法論Ⅰ 周産期における女性の看護

講師名 岩崎 加奈子

目 的

周産期および新生児の生理的経過とそのアセスメントについて学び、それぞれの過程においてセルフケア能力を高め適応促進に向けた看護の方法を理解する。

目 標

1. 妊産褥婦の身体的特徴と心理的・社会的変化を理解する
2. 妊娠、分娩、産褥の経過について学び、各期に必要なアセスメントと看護を理解する
3. 妊娠、分娩、産褥各期の母子、家族の関係や形成に必要な看護について理解する
4. 新生児の生理とアセスメントについて理解する

1 単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1.妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体のしくみ 2) 妊娠期の心理社会的な変化 3) 妊娠期のアセスメント 4) 妊娠期の母子の健康を保つための看護 5) 妊娠期の家族の変化	10	講 義	筆記試験
2.分娩期における看護 1) 分娩の生理 2) 分娩期の心理社会的な変化 3) 分娩期のアセスメント 4) 分娩期の母子の健康を保つための看護 5) 分娩期の家族の変化	8		
3.産褥期における看護 1) 産褥の経過 2) 産褥期のアセスメント 3) 産褥期の母子の健康を保つための看護 4) 産褥期の家族の変化	8		
4.新生児期における看護 1) 新生児の特徴 2) 子宮外環境への適応 3) 新生児の看護	4		

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論	森 恵美 他	医学書院

備考

試験は筆記試験と演習評価による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(助産師として周産期および新生児の生理的経過とアセスメントについて教授する)

母性看護学実習

目 的

女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象(母子)とその周囲を取り巻く社会・環境を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う。

目 標

1. マタニティサイクルにある対象とその家族の特徴を理解できる
2. マタニティサイクルにある対象が順調に経過するための援助の実際を理解し、看護過程が展開できる
3. 母子看護に必要な知識・技術および態度を習得できる
4. 母子保健システムを理解し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護者の役割について考えられる
5. 生命の尊厳と母性観・父性観について自己の考えを深めることができる

2 単位 (90 時間)

区 分	単位	実習の目的	実習目標
	時間数		
母性看護学実習	2 (90)	・女性の一生を通して母性機能が発揮されるマタニティサイクルにある対象(母子)を理解し、健康の保持・増進を目指しながら安全・安楽に環境適応するための看護を実践できる基礎的能力を養う	1.マタニティサイクルにある対象(母子)とその家族の特徴を理解できる 2.マタニティサイクルにある対象(母子)が順調に経過するための援助の実際を理解し、看護過程が展開できる 3.母子看護に必要な知識・技術および態度を習得できる 4.母子保健システムを理解し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護者の役割について考えられる 5.生命の尊厳と母性観・父性観について自己の考えを深めることができる

備考

試験は実習評価による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(助産師として、マタニティサイクルにある対象の看護の実際について教授する)

小児看護学方法論Ⅱ 小児の健康問題と看護

講師名 白石 直美

目 的

子どもの成長・発達を考慮し、子どもによくみられる症状・疾患・治療に対する看護と、健康問題や入院・治療が、子どもと家族に及ぼす影響について学ぶ。さらに、子どもの権利を踏まえ援助に必要な知識・技術・態度を習得する。

目 標

1. 子どもによくみられる症状・疾病・治療に対する看護について説明できる
2. 健康問題を抱えた子どもの家族に対する看護について説明できる
3. 健康問題および発達障害を抱えた子どもと家族の特性を踏まえた看護について考察できる
4. 子どもの病気や入院による家族への影響と、必要な看護（知識・技術・態度）について説明できる

1 単位（30 時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 疾病や入院・治療が子どもと家族に与える影響と看護 1) 病気に対する子どもの理解の特徴と説明について 2) 診療に伴うプレパレーション 3) 病気や診療・入院が子どもに与える影響と看護 4) 病気や診療・入院がきょうだいと家族に与える影響と看護 5) 痛みを表現している子どもと家族への看護 6) 活動制限が必要な子どもと家族への看護 7) 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 8) 外来における子どもと家族への看護 9) 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 2. 特別な状況にある子どもと家族への看護 1) 虐待を受けている子どもと家族への看護 2) 災害を受けた子どもと家族への看護 3. 急性期にある子どもと家族への看護 1) 急性期症状のある子どもと家族への看護 2) 救急処置が必要な子どもと家族への看護 3) 周術期における子どもと家族への看護 4) 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護	30	講 義 GW	筆記試験

内 容	時間数	授業形態	評 価
4.慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 1) 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護 2) 先天性疾患のある子どもと家族への看護 3) 心身障害のある子どもと家族への看護 4) 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護 5.終末期にある子どもと家族への看護 1) 子どもの死の理解 2) 終末期にある子どもと家族への緩和ケア 6.子どものフィジカルアセスメント 7.検査・処置を受ける子どもと家族への看護技術① 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測 3) 採血・採尿 4) 骨髄穿刺 5) 腰椎穿刺 8.検査・処置を受ける子どもと家族への看護技術② 1) 与薬 2) 注射 3) 輸液管理 4) 吸引 5) 酸素療法 6) 経管栄養		講 義 講 義 演 習 DVD	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児看護学② 小児臨床看護各論 病気がみえる vol.15 小児科 小児看護実習 クイックノート	奈良間 美保 他 奈良間 美保 他 池西 静江 他	医学書院 医学書院 メディックメディア 照林社

備考

試験は筆記試験による ABCDF の 5 段階評価とし、F 評価は単位不認定とする。

※ この授業は実務教育科目である。

(看護師として小児各期によくみられる症状・疾患・治療に対する看護と、健康問題を抱えた子どもの家族に対する看護について教授する)